

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K10836

研究課題名(和文) 日常世界と看護をつなぐ方法論としての漢方看護論の創出

研究課題名(英文) Creation A Theory of Kampo-Nursing as connection to People's common life and Professional Nursing

研究代表者

山田 雅子 (YAMADA, Masako)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：30459242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：漢方医学の哲学は女性の健康や高齢者の健康維持などに有効な知識体系を持つが、看護基礎教育での教育には課題が多く、漢方医学を活かす看護師は少ない。そこで看護師が学び活用するための漢方医学の内容を抽出し、看護学生および看護実践家に向けた教育プログラムを開発した。プログラムはオンラインで学習可能で、漢方専門医、漢方医学を学んだ看護師、鍼灸師から評価を受けるなど、質改善を経てver.3の完成に至った。

また看護実践家から漢方的看護実践事例の収集を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医師は漢方医学を学ぶのに対し看護師は学ぶ機会が極めて少ない。漢方医学では未病を扱い暮らしの中の養生を示すなどの特徴から、超高齢社会における地域包括ケアに寄与すると考えられるため、人々の暮らしの中で看護を提供する者たちが漢方医学を学ぶ意義は大きい。看護学生や看護実践家が漢方医学を学ぶための体系的な教育プログラムとしては初めての試みとして今後の発展につながると考える。

研究成果の概要(英文)：The philosophy of Kampo medicine has a body of knowledge that is effective for maintaining the health of women and the elderly. However, it is not in basic nursing education, and there are very few nurses studying Kampo medicine. Therefore, we extracted the contents of Kampo medicine for nurses to learn and utilize, and developed educating programs that nursing students can learn enthusiastically. The teaching materials were made available online, and both the degree of achievement of the tasks and the evaluation of the students were good. The teaching material ver. 3 was completed after quality improvement, such as receiving evaluations from Kampo specialists, nurses who learned Kampo medicine, and an acupuncturist.

The content of the teaching materials was to understand the basics of "Philosophy of Kampo medicine", "Ki-Blood water", "Four examinations", and "Care", and then to assess the individual constitution and think richly of care methods.

研究分野：看護学

キーワード：漢方医学 看護教育 漢方的看護論 教材開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

少子化を伴う超高齢社会において、人々が自分の心身の健康を維持したり回復したりするためには、自分で自分をケアする、つまりセルフケアの力を皆が身につけることが重要である。こうした問題意識を持ち私たちは、漢方医学から解決の糸口を見出すことができるのではないかと考え、看護学生や看護実践家を対象とした漢方医学教育に取り組んでいる。

大学での看護基礎教育では、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム(2017)」が活用されており、そこに「主要な和漢薬(漢方薬)の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる」という目標が盛り込まれている。しかし看護基礎教育における漢方医学教育については、看護学生を対象とした漢方医学教育の実践例を文献でいくつか確認できる(大野ら 2007)ものの、体系だった1単位分の教育プログラムは報告がない。さらに看護師が講師を務める教育プログラムも確認することはできなかった。すべての医学部教育で漢方医学が教えられているのとは大きな違いがあるのが現状である。

看護師が漢方医学を学ぶ意味は、漢方薬を処方された患者の服薬管理が適切にできることに留まらず、患者の健康課題を全人的に把握する具体的な術を身につけ、それに基づいた暮らしのなかの養生を提案することができ、それを患者自身のセルフケア力につなげることにあると考えられている。そこで本研究では看護学生を対象とした教育プログラムの開発に取り組んだ。

また養生法は、暮らしの中に根付いた日本の文化としてあり、看護師が意識せず漢方医学に基づく看護を実践している可能性がある。その実践を収集し、漢方医学的看護実践の体系化につなげることは、看護教育と看護実践の懸け橋となるものと想定した。そこで看護実践家向けの漢方医学教育プログラムを開発するとともに看護実践家が考える漢方医学的看護実践の掘り起こしについても試行することとした。

2. 研究の目的

研究目的は、以下の3つである。

看護学生を対象に漢方医学を教育するための教育プログラムを、質改善プロセスを用いて開発すること、看護実践家向けの漢方医学教育プログラムを開発すること、そして看護実践家が考える漢方医学的看護実践を掘り起こし収集することである。

3. 研究の方法

(1) 看護学生を対象とした教育プログラムの開発について

本研究は質改善の手法を用いて、看護師が教える看護学生・看護師のための漢方医学教育プログラム(以下、学生向けプログラム)を開発する。学生向けプログラムは、研究者が所属する看護系大学の4年生を対象とした選択科目(「看護ゼミナール(漢方医学と看護)」)で展開することにした。選択科目は演習科目であり、2018年度に開催した同科目のシラバスを土台にして、2019年度、2020年度、2021年度に実施する。プログラム評価との関係を図1に示した。

2019年度は対面で、演習1単位(90分を15回)分の教育プログラムを展開し、18名の学生が履修した。途中脱落者はなく全員が最後のレポート作成まで参加することができた。2020年度はCOVID-19流行に関連して、学生が自宅で学ぶことができるよう、オンデマンド教材とした。教材はスライド原稿とその解説文(文字データ)、鍼灸に関しては一部動画を作成した。プログラム評価は、受講者からのフィードバックと専門家にレビューを依頼した。専門家は、漢方医学教育に携わる医師、看護師、鍼灸師とした。

評価項目は、履修した学生の参加者数、脱落者数、そして履修後にオンライン調査で得られた教材の量的評価および質的評価に関する質問(コンテンツ毎の良かった点、改善すべき点)、重要性に関する質問(教材の有用性、満足度)、受講後の成果(西洋医学と東洋医学の考え方が整理できたか、未病が看護の対象となることが分かったか、漢方医学をセルフケアに活かしたいか、漢方医学を今後の看護実践に活かしたいか)を聞いた。

アンケートの回答および教材レビューに関しては、個人が特定されるデータは用いないこと、特に学生には科目評価に影響しないこと、学会等に公表することなどを文章で説明し、同意を得て実施することとした。なお、本研究については、研究者が所属する大学の研究倫理審査委員会

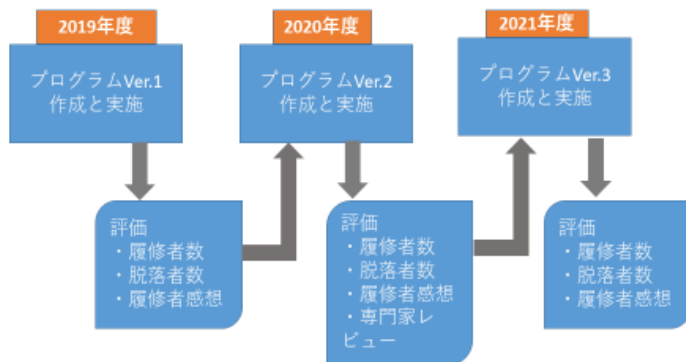


図1 看護学生を対象とした教材の開発プロセス

た。実践家向けプログラムの学習目標は、参加した看護師らが漢方医学を学ぶ重要性に気づくことと、漢方医学に対する学習意欲をもつことである。そのためにはできるだけ平易な言葉で表現することと、看護実践家たちが出会いそうな看護場面を想定して共感を得ること、難しい概念には触れずに、「陰陽」、「気血水」に留め作成した。実施後の評価は、参加者にアンケートにて行った。評価項目は、参加者数、漢方に関する知識が増えたか、漢方の考え方が看護につながると思えたか、漢方を知ることによって看護実践が広がると思えたか、漢方医学的ケアをやっている自分に気づいたかとした。

(3) 漢方的看護実践の収集について

(2)に記した実践家向けプログラムを受講したのちに、漢方医学的看護について、自身が実践していると考えられる事例の記載を依頼した。記載は無記名で自由意志に基づいて行うものとし、記載しないことでの不利益はないことを説明するなどの倫理的配慮として、研究者が所属する大学の研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号:20-A094)。

4. 研究成果

(1) 学生向けプログラムについて

以下には、オンデマンドで展開した2020年度および2021年度に使用した教育プログラムについて述べる。

2021年度 学生向けプログラム Ver.3の構成

2020年度に作成したプログラム Ver.2.について、専門家にレビューを依頼した。漢方医学教育に携わる医師2名、看護師2名、鍼灸師1名から質改善に向けた意見を聞くことができた。全員が「看護学生が漢方医学を学ぶにあたり有用な教材である」と回答した。その理由として、「漢方の概念を知ることによってセルフケアに活用できることが、丁寧に伝えられていた」や「事例がふんだんに盛り込まれており、わかりやすい」、「(このような教材は)他にない、特に養生」といった意見があった。一方改善点として、「気血だけでなく、水にも触れた方がよい」といった内容に関するものや、「この症例は、初めから少陰病期であったのではないか」といった症状の解釈に関するもの、「気血水の前に陰陽の考え方を理解してもらうことが重要である」といった順序性に関するもの、「看護学生よりも臨床家向けである」といった難易度に関する意見があった。

その結果を受け、2021年度プログラム Ver.3の概要を作成した(表1)。その特徴は、1単位の演習科目であり、オンデマンドで学べるプログラムであること、教材に用いる漢方医学用語にはルビを振っていること、履修者が漢方を学ぶことが自分のセルフケア向上にも関係があることを意識し、身近な事例をもとに漢方医学の要素を学習できることである。

身近な事例とは、なんとなく元気がなく体が冷えており気虚を思わせる事例、体質が異なれば健康回復の方法が異なることを学ぶための事例、生理不順で瘀血と思わせる事例とした。2つ目の異なる体質から学ぶ事例は、体格が同じ2人の女性で、一人は虚証タイプ、一人は実証タイプとした。それぞれに、やせる方法を考えたり、インフルエンザ罹患後の回復過程と対処方法が異なることを比較して示した。どの事例もイラストを豊富に活用した。

また鍼灸に関しては動画も用いた。

プログラム評価

の承認を得た(承認番号:20-A067)。

(2) 看護実践家を対象とした教育プログラムの開発について

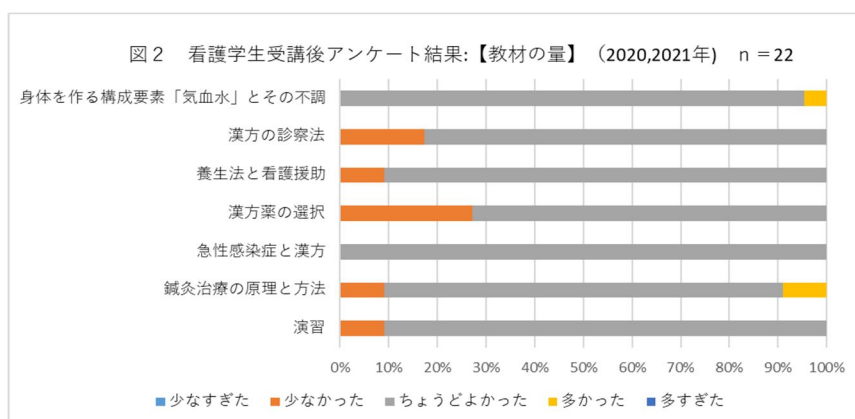
看護実践家を対象とした教育プログラム(以下、実践家向けプログラム)を開発する。看護実践家が多数参加する看護系学会等で活用できるよう、60分程度で漢方医学のエッセンスを身近な事例を通して学ぶことができるものを目指し

2020年度および2021年度に履修した看護学生は合計41名であり、脱落者はなく、全員が最後の課題まで到達することができた。履修後のアンケートには22名が回答した。

看護学生22名から回答を得、すべての回答者が教材は「親しみやすかった」とし、満足度は10点満点中9.0点と高かった。その理由は、自分のペースで学習できたことや、同世代のキャラクターが登場することで理解が促進されたことなどであった。一方改善点として、1回で学ぶ量の調整や漢方医学用語に対し、さらにルビを求める記述があった。学生向けプログラム後のアンケート結果を図2から図4に示した。

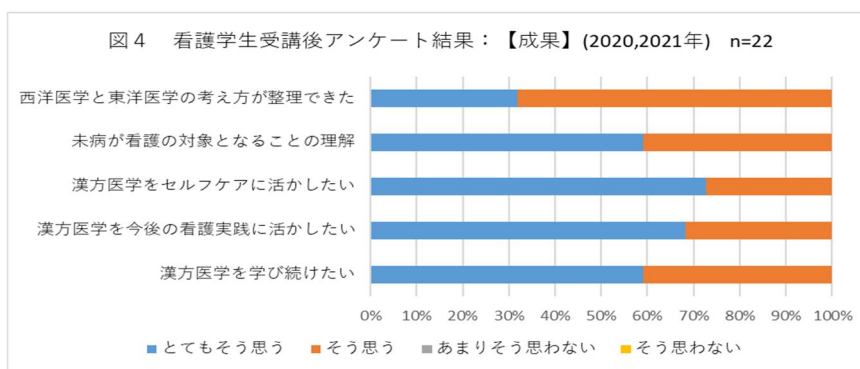
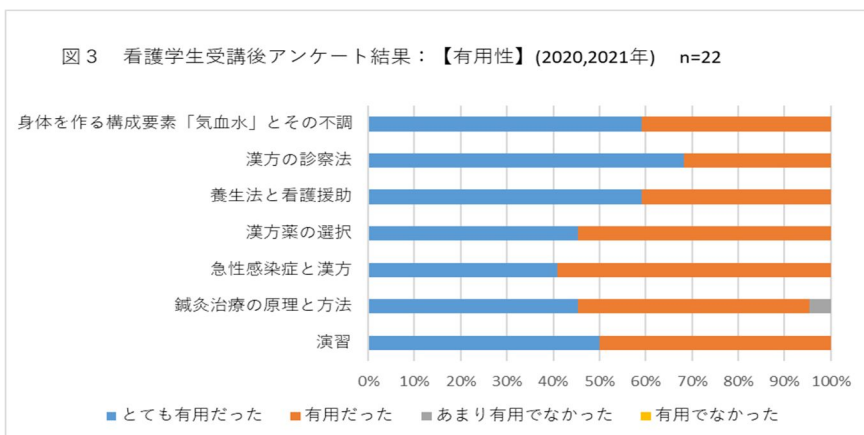
表1 学生向けプログラム Ver.3 (2021年度) 概要

回数	テーマ	目標と内容
第1回	ようこそ！漢方の世界へ 体を作る構成要素「気」とその不調①	全体的にその人を捉える方法とその重要性を理解する内容とした。 キーワードは、体質、虚・実、証、気（気虚、気鬱、気逆）
第2回	体を作る構成要素「気」とその不調②	
第3回	体を作る構成要素「気・血・水」とその不調①	「瘦せたい」を取り上げ、目標は同じでも体質によって解決方法が異なることを示す内容とした。 キーワードは、気血水
第4回	体を作る構成要素「気・血・水」とその不調②	
第5回	漢方の診察法 四診を体験してみよう①	漢方医学における診察法を看護過程になぞられて理解する内容とした。 キーワードは、四診、望診、聞診、問診、切診、舌診、脈診、腹診、弁証論治など
第6回	漢方の診察法 四診を体験してみよう②	
第7回	養生法と看護援助① 対象に合った養生法を考えよう	「養生法」の考え方と方法を理解する内容とした。 キーワードは、養生、天人合一、心身一如、陰陽平衡、陰陽論、など
第8回	養生法と看護援助② 対象に合った養生法を考えよう	
第9回	漢方薬の選択 事例をもとに、対象に合った漢方薬を見つけよう	漢方薬を構成する「生薬」について理解する、「漢方薬」の特徴や構成、飲み方を理解する、対象にあった漢方薬の選び方について理解する内容とした。 キーワードは、生薬、植物性生薬、動物性生薬、鉱物性生薬、四気、五味、佛経、温裏薬、補気薬、補血薬、補陰薬、解表薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、理血薬、利水薬、など 紹介した漢方薬は、麻黄湯、当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸
第10回	急性期感染症と漢方	急性症状にも漢方薬が活用される例を示し、多様な漢方薬の使い方を理解する内容とした。キーワードは、陰陽、陽病期、陰病期、六病位、太陽病期、小陽病期、陽明病期、太陰病期、少陰病期、厥陰病期、邪
第11回	グループ・個人ワーク	これまで学んだ漢方の知識と技術を使い、自分や身近な人に合った養生法を考えることができることを意図した。ワークシートに沿って四診一弁証論治一養生法までをグループワークで考える。
第12回	11回目の続き 全体討議	
第13回	鍼灸治療の原理と方法①	鍼灸治療の対象、治療方法および効果の概要を理解する、鍼灸が効果をもたらす機序を理解することを目標とした。 紹介した経穴は、認知症で虚弱な高齢者（百会、足三里）、高齢者の骨折（解谿、太衝、行間）、逆子（至陰、太衝、三陰交、太谿）、食中毒（天枢、中かん）、がん末期（期門、天枢、中かん、足三里、太衝、腎兪、志室、三陰交）
第14回	鍼灸治療の原理と方法②	
第15回	事例検討、意見交換、まとめ	自分自身や身近な人を四診・弁証し、対象に合った養生法を考えることをレポートにまとめ、意見交換する。



(2) 実践家向けプログラムについて

2021年6月開催の第8回日本CNS看護学会の交流集会に実践家向けプログラムを展開した。タイトルは、「漢方医学を高度看護実践に活かそう」とした。



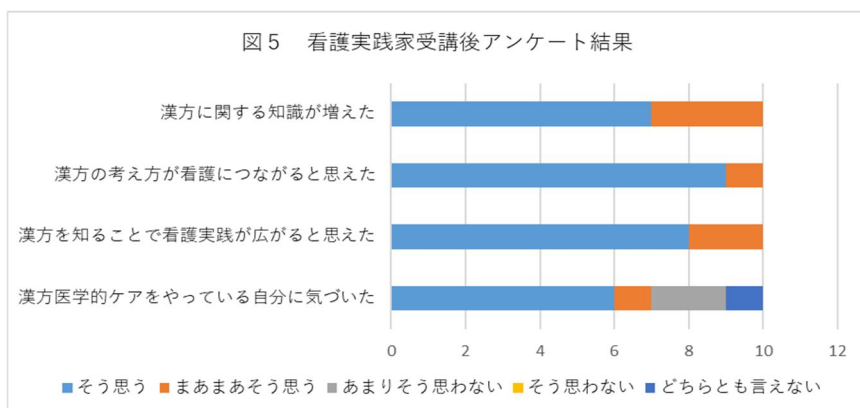
内容は、漢方医学を学んだ看護師が訪問看護の場面で経験した事例をもとに、対象者の健康回復に寄与した漢方医学に基づく看護介入について解説を行い、それに関連して、陰陽、気血水、補と瀉、漢方薬や経絡の刺激を含む養生について、概略を伝えるスライド原稿をQ&A方式に仕立て作成した。

学会当日は、そのスライド原稿を用いて、研究者らが対話をしながら進める方法をとった。交流集会はオンラインで配信され、参加者は最大123名に達した。交流集会終了直後に記載を依頼したアンケートには10名が

回答した。実践家向けプログラム受講後アンケートの集計結果を図5に示した。

(3) 漢方的看護実践の収集について

第8回日本CNS看護学会の交流集会で実践者向けプログラムを受講し「漢方医学的ケアをやっている自分に気づいた」と回答した者に、漢方的看護実践の事例を記述を依頼したところ、6名が回答し、8事例が報告された。8事例の内訳は、老年期の患者に対する6事例、中年期1事例、青年期～老年期1事例であり、疾患は、神経難病、肝臓がん、すい臓がん末期、がん、がん末期、認知症、下肢骨折、心不全が挙げられた。看護実践内容は、マッサージ、寄り添い、傾聴など、一般的な看護内容が含まれたが、特に漢方医学的な看護実践であるとみられる事例は、ツボを意識したケア（排泄ケア、苦痛症状の緩和）、足の冷えに対して局所を温めるだけでなく全身体操を取り入れたこと、苦痛緩和を意図して太陽を見せるケアが記述された。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Masako Yamada, Chifumi Yoshida, Tokutaro Tsuda, Erina Nishimura
2. 発表標題 Practical Report on the Significance and Pedagogy of Teaching Kampo Medicine to Nursing Students
3. 学会等名 The 6th International Nursing Resarch Confernce of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田雅子, 江口優子, 西村恵理奈, 吉田千文
2. 発表標題 漢方医学を高度看護実践に活かそう
3. 学会等名 第8回日本CNS看護学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 千文 (YOSHIDA Chifumi) (80258988)	常磐大学・その他部局等・教授 (32103)	削除：2020年6月5日 追加：2021年6月28日
研究分担者	津田 篤太郎 (TSUDA Tokutaro) (90837882)	聖路加国際大学・聖路加国際病院・診療教育アドバイザー (32633)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	西村 恵理奈 (NISHIMURA Erina) (80849993)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教 (32633)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関